

地域・社会貢献計画書

令和 7 年 2 月 12 日

(あて先) 京都市長

氏名 日本ビルド株式会社 代表取締役社長 遠藤 昭二

住所 東京都千代田区丸の内一丁目 11 番 1 号

パシフィックセンチュリープレイス丸の内 24 階

京都市中規模小売店舗設置指導要綱の手引に基づき、下記のとおり提出します。

記

店舗名称: (仮称) 山ノ内プロジェクト新築工事

店舗所在地: 京都市右京区西院春栄町 25 の一部、25 番 33 の一部、

京都市右京区山ノ内赤山町 1-1 の一部

1 地域・社会貢献に対する取組方針

地域社会の一員として、地域のコミュニティセンターとしての役割を果たす取り組みを実施します。

2 地域・社会貢献の取組内容 (令和 8 年 3 月 ~ 令和 10 年 3 月)

項目	細目	具体的な内容	実施時期	資料
1. 地域づくり・まちづくり	(1) 地域団体への加入、協力	ご当地 WAON 発行	令和 8 年 3 月 ~	有
2. 地域経済活性化	(2) 地元商品販売、開発協力	京都市中央卸売市場をはじめとした近郊生産者様より仕入れた地元商品の販売を行う。	令和 8 年 3 月 ~	有
5. 子育て・福祉	(6) 各種団体との連携	毎月 11 日のキャンペーンを通じて地域ボランティア団体へ寄付を行う。	令和 8 年 3 月 ~	有
7. 環境	(4) 廃棄物減量化促進	販売容量の見直し、魚のアラのリサイクル等を通じて食品廃棄物の排出抑制を行う。 ライフスタイルの変化に合わせた買いやすいサイズ・容量を提供し食品廃棄量の削減を行う。	令和 8 年 3 月 ~	有

※1 項目及び細目は、「小売店における地域・社会貢献推進の手引」の取組事例から該当するものを記載してください。

※2 地域・社会貢献活動内容に関する資料を適宜添付してください。

※3 開店前又は開店後 1 年未満で実施中のものがない場合、実施予定のものを記載してください。

※4 京都市中規模小売店舗設置指導要綱の届出時に協議済みの計画書を提出してください。

3 地域・社会貢献担当窓口

- (1) 名称 イオンリテール株式会社
- (2) 部署・担当者名 開発本部 近畿開発部 中澤 将太
- (3) 電話番号 06-6457-6108
- (4) Eメール nakazawa-shiyo@aeonpeople.biz

イオンとともに 自然と環境に貢献する 暮らしへ



植樹活動・里山づくり

イオンが、30年以上にわたり続けている植樹活動。イオンの新しい店舗がオープンする際、地域のコミュニティの場となるように「イオン ふるさと森づくり」として、お客さまとともに店舗の敷地内に植樹をしています。また、人と自然のバランスが取れた共生関係を目指した「イオンの里山づくり」にも取り組んでいます。



緑地により居住したイオンの森でお客さまとともに暮らす環境を築く。

環境

事業活動と環境活動が一体となった グリーン戦略を推進

ボトル to ボトル プロジェクト

イオンの店舗でお客さまから回収したペットボトルをリサイクルし、トップパブリックの製品原料の一部に使用、再商品化して販売することで、循環型社会の構築に取り組んでいます。



環境に優しい商品開発

トップパブリックを揃えるイオンでのお買物で自然と環境負荷低減に参加できるように取り組んでいます。2025年までに全てのトップパブリック商品を環境配慮商品へ切り替えます。



店舗を起点とした脱炭素への取り組み

店舗の100%再エネ化を目指すとともに、家庭の余剰再エネ電力を電気自動車に蓄えて来店された際に、WAONポイントで買い取るなど、再エネを地域内で無駄なく利用する仕組みを構築しています。



平和

心の安らかさや、乗り越える力に貢献

防災・災害対応

日頃から店舗の地震安全対策や防災拠点化を進め、地域の人々や行政とともに防災活動を行い、有事の際、地域のライフラインとなるべく日々、地域の皆さまの安全・安心に向けた防災対策に取り組んでいます。

令和6年 能登半島地震の被災地への支援活動



令和6年 能登半島地震被災地支援活動
を、国内外のイオンで実施。被災地の目撃者へ支援を要望しました。

地域

地域とともに、コミュニティの 発展と生活文化の向上を目指す

イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

この取り組みは、お買物を通して地域のボランティア団体を応援する仕組みです。毎月11日に、お客さまが精算時に受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体が書かれた店内のBOXに入れることで、レシート合計金額の1%相当の品物をイオンが各団体に寄贈する取り組みです。



人間

従業員とその家族、お客さま、 会社の3者の満足を追求

教育は最大の福祉

イオンは、人との関わりの中で、人間を尊重し、つながりを大切にしています。人間として成長することが従業員にとって最大の福祉であるという考えに基づき教育環境を整えています。



1969年に開校したジャスコ大学を前身としたイオンビジネススクールは、「自分のキャリアは自ら切り拓く」という姿勢を大切に将来目指す職種に必要な専門知識を自主的に学ぶ講座で、意欲ある人材の自己実現を支援しています。

イオンのDE&I (ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)

イオンは、誰もが公平な機会を与えられ、それぞれの個性を尊重し、活用される組織・社会を目指しDE&Iを推進しています。従業員一人ひとりが活躍することで、お客さま満足を高めています。



イオンは、多様な人材の活躍を推進するための組織の慣習、理解を促進するダイバーシティ研修や女性活躍推進研修を実施しています。



イオングループ食品廃棄物削減目標

食品廃棄物の削減は小売業にとって重要な課題です。この解決に向け、イオンは2025年までに食品廃棄物を半減。さらに廃棄物を単に廃棄するのではなく資源として活用できるよう「食品資源循環モデル」の構築にも取り組んでいます。



イオングループ食品廃棄物削減目標

食品廃棄物を2025年までに半減（2015年度比）

発生原単位（売上百万円あたりの食品廃棄物発生量）を2025年までに50%削減。

食品資源循環モデルの構築

店舗・生産者・リサイクル業者等の連携による地域循環モデルを構築。

店舗・商品での取り組み

「リデュース」「リサイクル」の取り組みを推進し、食品廃棄物の削減をしています。

Reduce
へらす

イオンリテール(株)

食品廃棄量の削減

- 販売容量の見直し
ライフスタイルの変化に合わせた買いやすいサイズ・容量で商品を提供しています。
- 発注精度の向上
精度の高い客数予測に基づく発注を実施し、売れ残り商品を削減しています。
- デジタル技術の活用
販売実績や天候・客数などの条件をAIが学習し、最適価格での売り切りに努めています。



Reduce
へらす

Recycle
再生利用

イオンモール(株)

「見える化」による削減

- 国内の専門店にもご協力いただき、ごみを原則18種類に分別し、可能なものをリサイクルしています。
- 分別した種類ごとに計量器で測定し、計量シールを貼付。ごみの量を把握し、見える化に取り組んでいます。



ちゃんと
リサイクル
しているのね



Recycle
再生利用

イオングループ全体

廃食油・魚のアラの リサイクル

惣菜の油や魚のアラを回収し、飼料・油脂等にリサイクルしています。



廃食油を
リサイクル



魚のアラを回収



食品残さを回収

生ゴミ
から
資源へ

トップバリュ

食品廃棄物削減につながる 取り組み



親芋をアップサイクルした
「冷製親里芋のポタージュ」

開発を担うトップバリュでも、「もったいないをおいしく!」をコンセプトに、サプライチェーン全体での食品廃棄物・ロスの削減に向けた取り組みを進めています。

地域とともに

地域のステークホルダーと連携して、リサイクルループの構築等を通じて食品廃棄物を削減しています。

イオン完結型食品リサイクルループの推進



お客さまとのコミュニケーションを通じて

お客さまとともに食品廃棄物を削減しています。

食品保存容器の提案



ご家庭で食品を上手に保存いただくために、各種容器を提案・販売しています。

クッキングステーションでの情報発信



食材を無駄なく使うレシピの紹介、調理の実演を行っています。

POP表示で食品ロス削減を呼びかけ



各地域の自治体等と連携したPOPを作成・掲示し、食品ロス削減を呼びかけています。

イオンの「廃棄物ゼロ」取り組みコンセプト

「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rの手法で、廃棄・燃焼し、埋め立てに回るゴミをゼロにしていきます。取り組みにあたっては、お客さまをはじめとするステークホルダーと連携し、資源循環型社会の構築に寄与します。



店舗・商品で



お客さまとの
コミュニケーションを通じて



地域とともに

Reduce
へらす

Reuse
再利用

Recycle
再生利用